

はこのわ

第2号 発行日：令和8年1月30日 函館市教育委員会学校教育政策課・統括地域コーディネーター

『はこのわ』第1号はもうご覧いただけましたでしょうか？記念すべき第2号は、防災特集です。

函館市では、各校での避難訓練だけでなく、その地域の状況に合わせた内容で地域の方々とともに防災意識を高める取組が多数展開されています。今回はその中で地域コーディネーターが活躍している活動の一部をご紹介します。

また、令和7年度は、地域学校協働活動の先進地である青森市で開催されたフォーラムに地域コーディネーター2名が参加してきました。その様子も少しですが、お届けさせていただきます。

この広報誌で、少しでも多くの方々に函館市の地域コーディネーターの活躍を知っていただけると幸いです。

中部小学校 みんなで遊防祭 ふれあい広場

【中村地域コーディネーターより】

中部小学校では、「子どもたちが将来戻りたくなるまち」、「顔見知りがたくさんのおまち」を目指してPTAや町会等で「中部カフェ企画委員会」を発足し、その活動の一つとして11月9日（日）に第2回となる防災教室を開催し、多くの中部小児童や校区の地域住民の方に参加していただきました。

活動の様子を見て、子どもたちが防災を通して地域の中で楽しく交流することで、「まちづくり」に興味がわいてくれたのではないかなと感じました。



深堀小学校 サバイバルクラブ

【京谷地域コーディネーターより】

深堀小学校では、地域人材を活用して行っている年6回のクラブ活動「サバイバルクラブ」の中で、自分や他の人の命を守るための知識を身に付ける活動をしています。現在、クラブに参加している児童は10名で、講師として自衛隊や救急救命士の方を招いて、実践的に教えてもらっています。クラブに参加している児童からは、「いざというときには積極的に行動してみたい」と、学んだことを活かそうとする姿勢も見られて、子どもたちの成長をととても感じられた活動でした。



南本通小学校 災害図上訓練(DIG)

【神田地域コーディネーターより】

南本通小学校では、9月17日（水）に4年生の総合的な学習の時間で「災害図上訓練・防災マップづくり 水害編」を行いました。

子どもたちは、函館中央警察署の2名の署員の方から災害時の避難経路や危険箇所の説明を受け、それをもとに「地域のスペシャリスト」である校区内の4町会14名の地域の方とともにグループワークをし、災害時の行動について話し合いました。

子どもたちが真剣に取り組む様子を見て、防災意識が高まったと感じました。



北星小学校 救急救命教室

【梶原地域コーディネーターより】

北星小学校では、9月19日（金）に、5・6年生の総合的な学習の時間で「目の前で人が倒れていたら、どうするか」をテーマに心肺蘇生やAEDの使い方を学びました。

子どもたちは少数のグループに分かれて、1班に1名、市の消防団員の方が講師として付いて、意識の確認や助けの呼び方、心臓マッサージの方法やAEDの使用方法について直接丁寧に指導してくれました。

子どもたちにとって、AEDや心臓マッサージなど、初めての体験ばかりだったので、とても貴重な体験となりました。



五稜郭中学校 防災学習

【酒井地域コーディネーターより】

五稜郭中学校では、12月18日（木）に家庭科の時間を利用して2年生を対象とした防災教室を実施しました。実践的に学べる内容として、町会の人と段ボールベッドを組み立てたり、包括支援センターなどと協力して車いすによる介助の方法を学んだり、市の災害対策課から発電機の使い方を学びました。

今回の学習から、子どもたち一人ひとりが、実際に災害が起こったときには地域の大切な担い手として活躍できる存在だということを自覚してもらえたと感じました。



青森市のみなさん

ありがとう!



青森市へ先進地視察に行ってきました！

令和7年11月12日(水)、教育委員会職員2名と地域コーディネーター2名が、青森市教育委員会主催の教育フォーラム2025『第4回 学校・家庭・地域が一体となった教育力向上研修講座 講演&事例発表会』に参加し、文部科学省 国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 統括研究官の志々田まなみ先生による「学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進」についての講演と、青森市内の小中学校の事例発表を聴講しました。

志々田先生からは、「地域学校協働活動」とは、学校・家庭・地域というそれぞれ違う立場・役割、価値、目的を持った人々が同じ目標を持ってともに行う活動をいい、目標をしっかり共有して互いに理解し合いながら進めていくことが持続可能な活動にするために重要であることなどの話があり、改めて自分たちはきちんとできているかな？と振り返りができたとともに、先生からの「地域学校協働活動の担い手はそんなにいないけど、いないわけじゃない」という言葉にとっても励まされ、また仲間を増やせるように頑張ろうと思えました。



また、青森市内の小中学校からの事例発表では、地域にある幼稚園や高校までのすべての教育機関と地域が互いの授業を見学・体験したり、協働で活動するなど、学校を核とした地域との連帯感の強さがとても印象的でした。

そのように地域と学校とが連携した活動を進める上で、「熟議」の重要性も改めて感じ、やっぱり『対話』ってすごい大事ななと感じさせられた、学びの多い一日でした！

青森市教育委員会の皆様、ありがとうございました。

※ フォーラムの詳細は青森市教育委員会発行「てとて」第55号をご確認ください。



わたしの学校の地域コーディネーター



名前：梅田 史恵
配置校：港小学校・港中学校

地域と子どもたちが安心安全に暮らせる環境をつくりたい！

地域の民生委員も兼務しており、地域全体の頼もしい相談役梅田地域コーディネーターが取り組む「港アカデミック・パッケージ・システム(MAPS)」は、港小中を中心として地域の教育機関等で組織され、地区合同の避難訓練を行っています。地域住民で結成された「見守り隊」も参加することで、地域全体の防災意識を高めるとともに、年齢に関係のない地域との繋がりも生みだしています。



名前：阿久津 満希
配置校：千代田小学校

モルック交流で子どもたちの安全な環境づくり！

阿久津地域コーディネーターが取り組む「モルックを活用した地域交流」では、月に1回、児童館に千代田小児童と町会の方が集まり、年齢に関係なくモルックで真剣勝負をしています。この活動を通して児童と町会との交流が生まれたことで、地域全体に子どもたちの様子を気にかけてくれる大人が増え、児童の安心安全な環境整備にも繋がっています。

編集後記

第2号発刊にあたり、たくさんの地域コーディネーターの活動を見学させていただきました。どの活動でも「子どもたちのために」という温かい思いがふれていて、少しずつ、学校と地域の温かいつながりが広がっていたり、地域コーディネーターの思いが形になってきているなど感じました。そんな日常の中の「ささやかなつながり」を感じていただけるよう、これからもたくさんの素敵な繋がりをお届けしていきたいと思っております！

統括地域コーディネーター 神田 克実

地域コーディネーターの活躍をもっと見たい場合は函館市公式 HP でご確認ください。➡

